

ご確認ください

かねてから当院では日本専門医機構による新専門医制度に対応すべく準備を行ってまいりましたが、皆様も報道等でご存じのとおり同機構の2016.7.20の新専門医制度開始の延期決定（2018年開始予定）がありました。従いまして当面は当院では専門医資格専攻希望者（専攻医）に対して従来から実施しておりました日本精神神経学会認定の専門医制度の研修プログラムを継続しますのでご了承ください。プログラム内容は下記のとおりです。今後も新制度に向けての準備は行ってまいります。今後の新専門医制度に関する情報の詳細は日本精神神経学会ホームページをご覧ください。

精神科領域専門医研修プログラム

■プログラム担当者 大田裕一

住所 〒901-2553 沖縄県浦添市字経塚346番地 平安病院

電話番号：098-877-6467

FAX：098-877-7320

■専攻医の募集人員：若干名

■専攻医の募集期間 随時

■応募方法、応募資格：

上記連絡先にお問い合わせください

■採用判定方法：

一次判定は書類選考で行います。そのうえで二次選考は面接を行います。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念

沖縄県には古くから互いに助け合うことを意味する「ゆいまーる」という言葉がある。当院では、その「ゆいまーる」の精神のもとに各指導者、スタッフが協力し、精神医学の進歩に対応し、専攻医の態度・技能・知識を研鑽し、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる自己研鑽を継続する姿勢を構築し、我が国の精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、国民の信頼にこたえるプロフェッショナルを養成することを理念とする。

2. 専門研修プログラムの使命

すべての利用者の人権を尊重し、生物学的、精神的、社会的、倫理的あるいはスピリチュアルな健康上の問題を総合的に把握して診断・治療する技術を身に付け、ユーザーである国民の信頼を得て満足度の高い精神科専門医療を提供できる医師を養成することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

当プログラムは、「心を病める人にへいあんを」の病院基本理念のもと、長年地域の精神医療に貢献してきた実績を踏まえ、臨床実践的な内容のプログラムを目指している。現在、当基幹病院では精神科救急病棟（スーパー救急）、精神科治療病棟（亜急性期、

重症慢性)、認知症治療病棟、精神科療養病棟、医療療養病棟などすべての精神疾患に対応可能な病棟を有し、統合失調症、高次脳機能障害、気分障害、認知症、発達障害など、広範囲な精神障害の症例について研修することが可能である。また県内医療機関との連携も積極的に行っており、コンサルテーション精神医療の研修も可能である。さらには医療のみならず、福祉、教育、行政などとの連携も積極的に展開している。当院はこれまで県内の研修医（初期、後期）制度の協力型病院として毎月1-2名の研修医を受け入れてきた実績がある。その実績と上記にのべた当院の特色を生かし、すべての精神科疾患に対応できる精神科の臨床専門医を育成することが可能である。

○ 研修基幹施設：医療法人へいあん 平安病院

精神科専門医研修施設、卒後臨床研修病院群（臨床研修システム「群星」※初期研修）の協力型病院として沖縄県における精神医学教育・研修の主要な役割を担ってきた。県内では約50年にわたり精神科臨床の中核として、充実した精神医療、教育研修の体制を整えている。精神科医療全般に渡る幅広い知識や技能を習得するために、急性期から慢性期、認知症、高次脳機能障害、発達障害など多くの症例を経験することができる。

○ 連携施設：現在調整中

II. 専門研修施設と研修プログラム

1. 連携施設の特徴

施設名：平安病院

- ・施設形態：民間病院
- ・院長名：大田 裕一
- ・プログラム統括責任者氏名：大田 裕一
- ・指導責任者氏名：大田裕一
- ・指導医人数：（5）人
- ・精神科病床数：（ 309 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	276	84
F1	96	30
F2	983	460
F3	430	105
F4 F50	296	45
F4 F7 F8 F9 F50	291	33

F6	23	5
その他	150	10

・施設としての特徴

精神科病棟と医療療養病棟を併設した病院であるが、精神科救急入院料算定病棟を有し、救急・急性期を中心とした入院精神科医療全般について学ぶことができる。青年期から老年期、身体合併症など、対象としている疾患は多岐に及んでいる。入院症例は統合失調症、気分障害、認知症、高次脳機能障害、発達障害など精神科専門医として経験すべき疾患について網羅している。また医療観察法の鑑定入院や同法の指定通院医療機関の指定も受けており司法精神医学関連の研修も可能である。更に高次脳機能障害支援普及事業拠点病院として県から委託を受けている。このようにほとんどの精神疾患についての知識や、薬物療法、行動制限の手順など必要な技能と知識を学ぶことができる。

医療療養病棟を併設しており内科的な身体管理も内科医の指導、相談が可能である。併設施設基準等：精神科救急病棟、応急入院指定病院、認知症治療病棟、医療療養病棟、精神療養病棟、精神科救急輪番制参加病院、医療観察法指定通院医療機関

- ・併設施設：かもめクリニック、自立訓練施設「経塚苑」、就労支援事業所「わくわく」、相談支援事業所「ゆんたく」

研修プログラムの実際

1 研修期間

卒後初期研修(2年)終了後の3年間

2 達成すべき専門技能

(1) 1 年次

精神科医療全般についての習得期間として、すべての精神疾患の外来及び入院治療に主治医として従事し、指導医の指導の下に精神療法、薬物療法、精神科リハビリテーションの基本を習得する。

①精神科的面接技術の習得

いわゆる「出会いと見立て」の体験、正確な情報を取得し「いまここで」の状態像を見立て家族や本人と良好な治療関係を築く。

②診断および治療計画

適正な診断を行い適正な治療に結び付けられるようにする。指導医の意見を聞きながら修正ができるようにする。

③疾患と病態の理解

疾患概念、病態を理解し家族や関係者に仮説を説明できるようになること

④薬物療法の基本

各種精神科薬剤の薬理作用を学び、その効果、副作用を習得し適切な薬剤選択ができること。副作用の把握と予防、効果判定ができること

⑤精神療法の基本

患者の心理を把握し仮説を立て治療に生かしていくこと。治療者-患者関係の中で生じる心理的現象を理解すること。家族の力が治療に重要であることを理解し良好な協力関係を構築すること。集団の中での心理的相互関係を理解すること。支持的精神療法の習得。

⑥補助検査法

CT, MRIなどの画像検査所見が判読できること。

※非常勤医師(放射線科医)が存在、教育関連の依頼が可能

⑦医の倫理

人権および自己決定権という方向から自らの臨床行為を点検する態度を身につけること。各関係法規との関連を理解すること

⑧安全管理

医療行為のリスクを把握し患者およびスタッフの安全を図り危険防止と危機管理にかする態度を習得することがひいては自己を守ることにつながることを理解する。患者や患者家族への説明が重要であることを理解する

⑨統合失調症

- 1) 患者および家族へ適切な接し方ができること
- 2) 病歴聴取、診察を行い診断基準に従い診断できること
- 3) 適切な治療計画の作成と治療薬の選択

- 4) 支持的な精神療法、生活指導ができ集団療法に導入できる
- 5) 精神科リハビリテーション（作業療法、疾病教育）に導入できること
- 6) 早期に地域に復帰できるように支援する手順を学ぶ（関係部署、機関との連携）

⑩気分障害

- 1) 患者および家族へ適切な接し方ができること
- 2) 病歴聴取、診察を行い診断基準に従い診断できること。鑑別診断ができること
- 3) 鑑別のために必要な検査ができること
- 4) 人格特徴を把握し、自傷の可能性の判断とその対策を行う事
- 5) 適切な薬物療法の選択を行う
- 6) 支持的な精神療法を行い良好な治療関係を構築できること
- 7) 認知行動療法やその他の治療法の説明ができること

⑪症状性を含む器質性精神障害、高次脳機能障害

- 1) 患者および家族へ適切な接し方ができること
- 2) 病歴聴取、診察を行い診断基準に従い診断できること
- 3) 意識障害や知的障害の把握ができるようになること
- 4) 身体的診察や神経学的所見がとれること
- 5) 検査所見が判読できること（CT, MRI, 脳波、知能検査）
- 6) 身体疾患治療機関との協力など適切な治療ができるようになること
- 7) 支援のための制度を理解すること

(2) 2 年次

精神科医療における専門技術を高めるために、認知行動療法、集団療法、家族療法、の指導的役割、デイケア担当医の経験等、専門的な技術を習得する。また、上級の指導の下に福祉・教育・行政機関との連携を経験する（見学等含む）。さらに、関連病院（糸満晴明病院、那覇市立病院、サマリヤ人病院、宮里病院、田崎病院）における研修期間を設け、児童精神医学、精神科救急医療などについて研修を行う。

①精神科的面接技術の習得

本人や家族から正確な情報を取得し適正な診断治療に結びつけることができる。家族や本人と良好な治療関係を築きこれからの治療共同体の一員となってもらえることを目標とする。多くの症例を経験する。

②診断および治療計画

現在の新しい疾病分類に即した診断を行い適正な治療に結び付けられるようにする。関係する法律（医療法、精神保健福祉法、その他福祉関係法規）に従った診断、治療計画、説明、治療期間判断ができるようになること。

③疾患と病態の理解

最新の疾患概念、病態を理解し家族や関係者に最新の仮説や情報を説明できるようになる

④薬物療法

疾患、病態に応じた適切な薬剤選択ができること。副作用の把握と予防ができ多剤併用にならないようにできる

⑤精神療法

認知行動療法と力動的な精神療法の基本を学ぶ。家族との協力関係を良好に保ち疾患教室や家族教室の運営を行うことができる

⑥補助検査法

脳波検査が判読できること。知能検査の結果を理解することができること

⑦医の倫理

インフォームドコンセントに基づいた診療が行える

⑧安全管理

薬物の副作用をチェックし被害が最小限になるようにする。自殺のリスクを評価しその対策を講じることができる

⑨神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、摂食障害

- 1) 患者および家族へ適切な接し方ができること。受容共感的態度を学ぶ
- 2) 病歴聴取、診察を行い診断基準に従い診断できること
- 3) 治療者の心理的問題が生じたときの処理について学ぶ
- 4) 人格特徴、生育環境、病像の関係を生活史的視点で把握・理解できる
- 5) 多職種と協力しチーム医療が展開できる
- 6) 指導医からのスーパーバイズを受ける

⑩精神作用物質による精神および行動の障害

- 1) 患者および家族へ適切な接し方ができること
- 2) 症状を適切に評価し診断できること。身体症状の評価と鑑別診断ができること
- 3) 家族や環境の状況と症状の相互作用について把握できる
- 4) 人格特徴を把握し、自傷の可能性の判断とその対策を行う事
- 5) 認知行動療法、動機づけ面接など適切な治療法を選択できる
- 6) 薬物療法について注意すべき点を学ぶ
- 7) 自助組織や関連施設、団体の情報を提供する

⑪ てんかん（てんかん精神病）、睡眠障害

- 1) 患者および家族へ適切な接し方ができること
- 2) 病歴聴取、診察を行い診断基準に従い診断できること
- 3) 発作型や精神症状に応じて適切な治療が選択できる
- 4) 身体的診察や神経学的所見がとれること
- 5) 検査所見の依頼と判読できること（CT, MRI, 脳波など）

⑫精神科救急医学

精神運動興奮状態や自殺企図のリスクの高い患者への対応を行い精神科救急で取り扱うケースに対応できるようになる。措置入院や応急入院についても経験する。精神保健指定医の協力を要請する。

⑬リエゾン・コンサルテーション精神医学（依頼があった時に適宜）

指導医と共に、他の診療科医師からの依頼に応じて患者の精神医学的診断・治療・ケアについて適切な意見を述べ、身体的疾患の治療が円滑にすすめられるように協力して医療を行っていく。

⑭認知症関連疾患

- 1) 患者及び家族に適切な接し方ができること
- 2) 病歴聴取、診察を行い診断基準に従い診断できること
- 3) 検査の判断ができること（CT, MRI）
- 4) 必要な社会的資源の利用について説明できること
- 5) スタッフを指導してケアを計画すること

(3) 3年次

精神科医療と他の分野との関係を理解し、精神科チーム医療を実践するとともに、精神科専門医の資格取得に向けて準備する。福祉・教育・行政機関との連携を実践する（自治体、福祉事業所などでの会議等、地域あるいは学校主催の講演会講師、担当者を集めての合同ケース会議など）。他の医療機関の要請に応じて助言ができるようになり、スタッフや下級研修医の指導も出来るようになる。学会発表や論文発表にもチャレンジしていく。

①診断と治療計画

多くの症例を経験し良い結果が得られた場合には症例報告を作成発表にチャレンジする。自傷や悪化など残念な結果においても検討会を行い振り返りができるようにする。

②薬物療法

治療が奏功した例についてまとめて報告し検討会を行う。症例数が集まれば学会発表、論文による症例報告にチャレンジする

③精神療法

認知行動療法と力動的な精神療法を上級者の指導の下に実践する。他の精神療法についても理解を深める

④精神科リハビリテーション、地域精神医療

障害からのリハビリ、自立促進、地域での生活維持のために必要な心理社会的治療法について実践し合わせて地域精神医療のシステムを理解する

⑤法と精神医学

医療法、精神保健福祉法、医療観察法など関係法規を理解し後見人制度、簡易鑑定、措置診察などの実際を理解する。人権と行動制限についても深く理解する

⑥補助検査法

知能検査やその他の心理検査の結果を理解し本人や家族に説明することができる

⑦安全管理

自傷他害行為の評価と対策ができる。身体拘束時の安全管理ができる。医療者の不適切な対応で患者に重大な不利益が生じた場合の対応について学ぶ。

⑧ 児童・思春期精神障害

- 1) 患者および家族へ適切な接しができること。安心できる治療環境の設定ができる
- 2) 学校の情報や成育歴なども参考にして適切に診断できること
- 3) 治療者の心理的問題が生じたときの処理について学ぶ
- 4) 受診に至るまでの親の心理や子供の心理に配慮して話を聞く
- 5) 多職種と協力しチーム医療が展開できる
- 6) 家族の力が重要であることを理解し的確な情報を与え家族自体を治療チームへ組み込んでいく。ペアレントトレーニングについて理解する

⑨ パーソナリティ障害

- 1) 患者および家族へ適切な接しができること
- 2) 症状を適切に評価し診断できること。身体症状の評価と鑑別診断ができること
- 3) 家族や環境の状況と症状の相互作用について把握できる
- 4) 人格特徴を把握し、自傷の可能性の判断とその対策を行う事
- 5) 認知行動療法、動機づけ面接など適切な治療法を選択できる
- 6) 薬物療法について注意すべき点を学ぶ
- 7) 自助組織や関連施設、団体の情報を提供する

3 臨床研究およびリサーチマインドの涵養について

研修施設群での多彩な経験および研究実績のある臨床医やコメディカルとの交流を通して科学的な思考の獲得、研究への動機づけ、意欲向上を目指していく。その結果として精神科医療の方向性や将来像についても科学的に語れるような医師を育成することが専攻医研修についても重要な使命であると考えている。次に示す日本専門医機構のあげているリサーチマインドの涵養の要件に従って計画を立てていく。

I. 科学的思考の鍛錬を経た指導医による指導

II. 臨床研究への参加

III. 臨床研究・治療法の発表と評価

IV. リサーチマインド獲得を当然とする習慣や慣習

Iについては上記冒頭に示したとおりである。基幹病院では、社会精神医学、司法精神医学、精神薬理学、精神生理学、臨床心理学などについて経験者がおり研究指導が可能である。研究における倫理的配慮、統計解析法、文献検索の方法についても統括責任者で教育を行う予定である。

IIについては定期的開催される症例検討会の中で指導医が適切なものを選び専攻医の関心の高い分野と合わせ研究テーマを決めていく。定期的な統括責任者との面談の中でも研究テーマは常に取り上げてその進捗状況をチェックする。

IIIは、経験した症例の中でも意義のあるものについては学会等での発表や専門誌などへの投稿を勧める。当研修施設群で受けている臨床治験などにおいてもデータ使用が可能なものがあれば発表していく。また医療観察法の指定通院など司法関連の症例についても

研究可能である。

IVでは日本精神神経学会総会には必ず参加させる。研修中に沖縄、九州、日本のいずれかの精神神経学会で臨床研究の学会発表が出来るように指導する。必要に応じて外部講師を招聘する予定である。(県内外の大学研究者の講師を招聘したうつ病講演会、高次脳機能障害関連の講演会などの実績もある。毎年8月基幹病院の病院内医学会で定期的に外部講師の講演を開催している)

4 病棟・外来業務

病棟は救急病棟、精神科療養病棟各病棟に数名ずつの患者を主治医として担当し、指導医と相談しながら、病棟のケース会議、症例検討会などをチームの中心となって進めることが出来るように研修する。外来は基本的には受け持ち患者を退院させた場合に担当となるが、研修3年目には、新患担当となって治療できるようになることを目標とする。また精神科救急(輪番制)の当直業務を精神保健指定医のオンコール体制の下で行い精神科救急について研修する。

5 個別項目についての研修の在り方

①倫理性・社会性

各種連携をとおして他職種の専門家と交流し、その中で社会人として常識ある態度や素養を求められる。また社会の中での多職種とのチームワーク医療の構築について学習する。連携している大学病院などでは他の専攻医との交流がもたれる。リエゾン・コンサルテーション症例を通して身体科との連携を持ち医師としての責任や社会性、倫理観などについても指導医や他のスタッフからも学ぶように指導する。

②学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。患者の日常的診療から浮かび上がる問題を日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決できない問題についても、積極的に臨床研究や基礎研究に参加することで、解決の糸口を見つけようとする姿勢が求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とする。その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの自ら学び考える姿勢を心がける。

③基本的診察能力・態度の習得

学会や各種研修会等に参加して医療安全、感染管理、医療倫理、医師として身につけるべき態度などについて履修し、医師としての基本的診察能力を高める機会をもうける。関係法規についても各種入院形態や、行動制限の事例などを経験することで学んでいく。診断書、証明書、精神保健福祉法に関する書類、死亡診断書、その他各種の書類の記入、法的な意味について理解し記載できるようになる。チーム医療の必要性についても地域活動を通して学習する。また院内の集団療法

を経験することで他のスタッフと協力して診療にあたる。初期研修医などの後輩の指導ができるように、指導医とともに受け持ち患者を担当してもらうこともある。

6 研修の週間・年間計画

別紙を参照。

その他

1 プログラム管理体制について

- ・プログラム管理委員会(資格等)
 - 医師:大田裕一(専門医、指導医)
 - 医師:平安明(専門医)
 - 医師:安里尚彦(専門医)
 - 医師:渡嘉敷いづみ(専門医、指導医)
 - 医師:久保隆平(内科医、専門医)
 - 医師:堀美帆(専門医、指導医)
 - 臨床心理士:平安良治
 - 看護師:宜野座美枝子
 - 精神保健福祉士:比嘉真也
 - 事務局長:瀬底長昭(看護師)
 - 総務部長:山城秀光
- ・プログラム統括責任者 : 大田裕一
- ・連携施設における委員会組織

研修プログラム連携施設担当者と専門研修指導医で委員会を組織し、個々の専攻医の研修状況について管理・改善を行う。上記メンバーは人事の異動などに伴い変更する場合がある。

2 評価について

(1) 評価体制

専攻医に対する指導内容は、日本精神神経学会の研修手帳に時系列で記載して、専攻医と情報を共有する。

(2) 評価時期と評価方法

- ・研修目標の達成度を、指導医と専攻医自身がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導医が確認

しその結果を統括責任者に提出する。

- ・専攻医の研修実績および評価には日本精神神経学会の方式を用いる。

(3) 研修記録について

「研修手帳」に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は、少なくとも年1回おこなう。平安病院にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も行い保管する。

3 全体の管理運営体制

(1) 専攻医の就業環境の整備(労務管理)

- ・専攻医のキャリア、処遇、心身の健康等、専攻医が充実した研修を受けられるような体制を構築する。

基幹施設の就業規則に基づき勤務時間あるいは休日、有給休暇などを与える。

勤務(日勤) 8:30～17:30 (休憩1時間)

当直勤務 17:30～翌8:30

休日 ①日曜日 ②国民の祝日 ③法人が指定した日

年間公休数は別に定めた計算方法による

年次有給休暇を規定により付与する

その他 慶弔休暇、産前産後休業、介護休業、育児休業など就業規則に規定されたものについては請求に応じて付与できる。

それぞれの連携施設においては各施設が独自に定めた就業規定に則って勤務する。ただし自己学習日についてはいずれの施設においても出勤扱いとする。また本プログラム参加中の者には精神神経学会総会、同地方会、日本精神科医学会への出席にかぎり交通費を研修中の施設より支給する。

(2) 専攻医の心身の健康管理

安全衛生管理規定に基づいて一年に2回の健康診断を実施する。

検診の内容は別に規定する。(ストレスチェック等平安病院法人規程に従う)

産業医による心身の健康管理を実施し異常の早期発見に努める。

(3) プログラムの改善・改良

研修施設群内における連携会議を定期的に行い、問題点の抽出と改善を行う。専攻医からの意見や評価を専門医研修プログラム管理委員会の研修委員会で検討し、次年度のプログラムへの反映を行う。

平安病院 精神科

週間計画

	月	火	水	木	金	土
午前	外来陪席	外来陪席	外来陪席	外来陪席	外来陪席	
			医療観察法指定通院 ケア会議			
午後	病棟回診	病棟回診	症例検討会	病棟回診	病棟回診	
	抄読会	抄読会	医局会 症例検討会 措置入院カンファレ ンス	医療観察法指定通院評 価会議		

年間計画

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会総会参加 法人合同研修（医療安全、院内感染、医薬品安全管理、医療機器、・NST・褥瘡、精神保健福祉法）
7月	
8月	医学会
9月	
10月	
11月	精神科救急学会参加・ 法人合同研修（医療安全、院内感染、医薬品安全管理、医療機器、・NST・褥瘡、精神保健福祉法）
12月	
1月	
2月	沖縄精神神経学会発表・参加
3月	